

# 春の特別ラン展における「シンビジウムの古品種」展示について

島田有紀子・磯部実・濱谷修一

## 展示の背景

当園の大規模イベントの一つである春の特別ラン展は、大温室で洋ランをふんだんに使った華やかな装飾をはじめ、広島県および山口県のラン愛好家による出品展示などが見どころであるが、それに加え、ランに関する知識と興味を深めてもらうことを目的に、テーマ性のある展示をしたいと考えている。

折しも、洋ラン業者から、岡山県にシンビジウムのコレクターがいるとの情報を得、2020年3月に苫田郡鏡野町在住の池田晃氏宅を見学した。その結果、かつて国内有数の洋ラン生産農園であった広島県の（有）高木農園の品種が数多く保存されているほか、現在は流通していない古い品種が個人の手によって維持されていることを知った。そこで、当園のラン展で、広く一般に、シンビジウムの栽培史とそれに関わる様々な品種を紹介したいと思い、池田氏に展示協力を依頼したところ、快諾を得ることができた。

このような背景から、2021年2月20日から2月28日まで開催された春の特別ラン展において、大温室の空中デッキ（スロープ）にて「シンビジウムのタイムトンネル」と題し、シンビジウムの古品種から現在も流通している品種および当園保有の野生種など74種類（野生種および栽培品種）91株を展示する運びとなった。

## 展示概要

池田氏から、高木農園による作出品種と、シンビジウムの栽培史を語る上で重要な品種の計57品種を借用した。

高木農園による作出品種を展示する上で、高木農園の歴史や育種に関する情報を紹介したいと考えたが、それらに関する文献はほとんど見当たらなかったことから、元高木農園常務小島勝也氏に聞き取り調査を行った。それら情報をパネルにまとめ、品種とともに展示解説した。

表1および図1の①～⑪は、各コーナーのテーマと配置を示す。すなわち、①シンビジウムの

野生種、②日本最古の洋ラン「シンビジウム・トラキアヌム」、③シンビジウムの人工交配種のはじまり、④一世を風靡した下垂性シンビジウム・サラ・ジーン・アイス・キャスケードの歴史、⑤女優シリーズや映画のタイトルの品種、⑥貴重な古品種、⑦高木農園で生まれたシンビジウム、⑧高木農園の育種に使われた日本のシンビジウム、⑨広島県で生まれたシンビジウム（広島県廿日市市在住の故藤尾謙吾氏作出品種）、⑩河野メリクロン作出品種、⑪現代人気のシンビジウムである。

以下に、各コーナーの解説と聞き取り調査による情報を記す。

### ①シンビジウムの野生種

*Cym. erythraeum* var. *flavum* と *Cym. sanderae* の開花株は当園の保存株を、*Cym. dayanum*、*Cym. erythraeum* ‘利休’、*Cym. lowianum* ‘James Drysdale’、*Cym. wenshanense* の開花株は池田氏から借用し、展示した。

### ②日本最古の洋ラン「シンビジウム・トラキアヌム (*Cym. tracyanum*)」

本種は日本に最初に渡来した洋ランとされている。幕末に長崎で活躍していた貿易商であり、長崎の観光名所「グラバー邸」で有名な英国出身のトーマス・ブレイク・グラバーが幕末から明治初期にかけて上海から長崎に持ち込んだ（大場、2018）。当時の株の子孫は代々受け継がれて、地元長崎では今も「グラバーさん」の愛称で親しまれている。

本種の開花は早生で、当園の個体はビニールハウス栽培で12月から開花が始まり1月中旬に終了した。幸いにも広島県在住の沖村忠和氏から開花株を借用することができ、「グラバーさん」と同一個体ではないが本種を展示することができた。

### ③シンビジウムの人工交配種のはじまり

1889年にイギリスで初めて本属の野生種同士の交配種エブルネオ・ローウィアヌム (*Cym. Eburneo-lowianum* = *Cym. eburneum* × *Cym. lowianum*) が誕生し、さらにそれに別の野生種 *Cym. insigne* を交配してアレキサンデリ (*Cym. Alexanderi* (= *Cym. Eburneo-lowianum* × *Cym.*

insigne)) が生まれた。1911年に登録されたアレキサン德里には2倍体と4倍体の個体があり、シンビジウム初の4倍体の個体である‘ウェストンバート’ (‘Westonbirt’) は、大柄な草姿で太く直立する花茎に整った形の白色の大きな花をつける。この‘ウェストンバート’の登場によってボリュームのあるシンビジウムの改良が飛躍的に発展した。このため、アレキサン德里は野生種からわずか2世代目にして、『シンビジウムの改良に最も大きい貢献をした』、『本品種なしでは今日のシンビジウムの発達は考えられない』と称された名品と言われている。

4倍体の‘ウェストンバート’は開花が遅いため、今回は実物を展示することはできず、写真のみの紹介となった。

一方、‘ウェストンバート’と兄弟株である2倍体の‘アルバム’ (‘Album’)、‘ファイン’ (‘Fine’) を展示した。これらは小柄な草姿で、日本の住宅事情に適したコンパクトなシンビジウムを作るための交配親としてかつて注目された個体である。小島氏によると、4倍体である‘ウェストンバート’を2倍体個体と交配すると次世代は3倍体になるため、その先の育種が止まってしまうこと、また‘ウェストンバート’は高価で入手しづらかったこと、さらに‘ウェストンバート’のような大柄な草姿はアメリカでは需要があったが、日本の住宅事情に鑑みるとコンパクトな鉢花を作るほうが需要があると考えたことから、高木農園では2倍体の‘アルバム’や‘ファイン’を交配親に多用したとのことであった。

#### ④一世を風靡した下垂性シンビジウム・サラ・ジーン・アイス・キャスケード’ (Cym. Sarah Jean ‘Ice Cascade’) の歴史

サラ・ジーン・アイス・キャスケード’を市場から導入するほか、池田氏からその変異個体を借用し展示した (写真1)。

サラ・ジーン・アイス・キャスケード’はキンリョウヘン (Cym. floribundum) を片親にしてオーストラリアで交配された品種で (1973年登録)、花茎が下垂する性質を持つ。小島氏によると、日本には1970年代後半に初めて故三浦二郎氏によってアメリカからメリクロン苗が導入された。続いて、1986～1987年頃に再び向山農園や静岡県浜松市の生産者らがオーストラリアからメ

リクロン苗を導入した。しかし当時は、シンビジウムというと直立するタイプしかなく、またメロディ・フェア‘マリリン・モンロー’ (Cym. Melody Fair ‘Marilyn Monroe’) の全盛期であり、‘アイス・キャスケード’のような小輪で花茎が下垂するタイプは注目されなかった。その後、浜松市の生産者があえてその下垂する性質を生かし、短い支柱に花茎を誘引して美しいアーチ状に仕立て、またそれを梱包して輸送するための大きな箱も考案して流通に乗せたところ、スタンダードなシンビジウムがやや飽きられつつあったこともあり、1990年頃から爆発的な人気を呼んだという。やがて、それを模倣して、スタンダードタイプまでもアーチ状に仕立てられるようになっていった。

#### ⑤女優シリーズや映画のタイトルの品種

メロディ・フェア (Cym. Melody Fair) およびグレート・ワルツ (Cym. Great Walts) は故三浦二郎氏がカリフォルニアのナーセリーから未登録のフラスコ実生苗を持ち帰ったもので、同氏によって1973年に登録された。それらは1978年頃から販売されたが、当時は中輪の花が流行っていた時代で、これらの大輪品種はすぐには注目されなかったという (小島氏談)。しかし、やがてバブル期が到来すると、豪華で見栄えのする品種が好まれるようになり、1986年頃、メロディ・フェア‘マリリン・モンロー’が人気を集め、シンビジウムの代表格となった。そのほか、ホワイト・クリスタル‘グレース・ケリー’ (Cym. White Crystal ‘Grace Kelly’) や‘ブリジット・バルドー’ (Cym. White Crystal ‘Brigitte Bardot’) など、ハリウッド人気女優の名前や映画のタイトル名を付けた個体が続々と登場し、一世を風靡した。

#### ⑥貴重な古品種

池田氏から借用した18品種を展示した。ベネット・ポエイ (Cym. Bennett-Poei) は今回の展示の中で一番古く、1903年の登録品種 (RHS) である。

#### ⑦高木農園で生まれたシンビジウム

#### ⑧高木農園の育種に使われた日本のシンビジウム

「高木農園で生まれたシンビジウム」コーナーでは高木農園が作出した20交配種21株を展示するとともに、高木農園の歴史をパネルで紹介した(表2、写真2)。

#### 高木農園の歴史について

広島県佐伯郡五日市地区(現広島市佐伯区五日市地区)は1960年頃から洋ランの生産が盛んで、日本の大規模洋ラン生産の発祥の地とされている(上田・石田 2007)。広島市植物公園がランのコレクションに力を入れることになった理由の一つでもある。

1937年に佐伯郡能美町鹿川にて創業した故高木作一氏は当初カーネーション栽培をしていたが、1949年に佐伯郡五日市町(現広島市佐伯区)、1954年には佐伯郡廿日市町(現廿日市市平良)に移転し、1959年から洋ラン栽培を始めた。1971年に西広島バイパス工事による立ち退きで高田郡八千代町(現安芸高田市八千代町)へ移転した後もさまざまな洋ランの生産と育種を行った。長男の故誠作氏も後を継ぎ、次々と新品種を発表した。しかしながら、ガーデニングブームとは裏腹に洋ランの人気の下火になる中、2001年に閉園した。

#### 高木農園の育種の特徴について

高度経済成長期に贈答用や仕事花として、より豪華でボリュームのある大型品種が流行した。しかし、小島氏は品種名こそ違っても花容は似通ったものばかりが出回っているように感じたため、まったく違った草姿・花容を求め、東洋蘭系の育種を始めた。

また、一般家庭でも栽培が容易で耐寒性の強いシンビジウムを普及させたいという目的から、キンリョウヘンやシュンラン(*Cym. goeringii*)などを使った育種を行った。同様の考えから、シンビジウム以外でもフウラン(*V. falcata*)を使った交配やセッコク(*Den. moniliforme*)を使ったデンドロビウムの交配を行っている。

さらに、ホウサイラン(*Cym. sinense*)を使った育種では、その花の香りが後代に残ることを見出した。ただ、褐紅色系や緑系の花色の場合は後代に香りが残るが、明桃色系や明紅色系の後代には香りが残らなかった。また、キンリョウヘン×ホウサイランでは香りが残るが、キン

リョウヘンを片親にしたF1のSweetheartやWakakusaやSazanamiとホウサイランを交配させても香りはほとんど遺伝しなかったという。

そのほか、芳香のある親としてホウサイランのほか、シュンラン、スルガラン(*Cym. ensifolium*)、カンラン(*Cym. kanran*)、一茎九花(*Cym. foberi*)、シ・エブルネウム(*Cym. eburneum*)、シ・フーケリアヌム(*Cym. hookerianum*)、シ・マスターシー(*Cym. mastersii*)などを使い、相互の交配や片親として交配し、F2まで行ったが、香りは思うほど強く残らなかった。その中でも、一番強く香りを持ったのは、シ・フーケリアヌム×シ・エブルネウム(*Cym. hookerianum* × *Cym. eburneum*)であったが、次世代にはさほど香りが残らなかった。このように芳香花の育種では期待した結果がなかなか得られなかった。

また、市場評価の高い年内に出荷することを目的に、栽培コストを抑え、山上げしなくても年内開花が望める、早咲き性を持たせる交配育種を行った。

以上のように、高木農園では流行ばかりに左右されることなく、一般家庭で栽培しやすい品種、芳香性の品種、生産性および市場性の高い品種など、独創的な発想で育種を行っていた。

#### ⑨広島県で生まれたシンビジウム

広島県廿日市市在住の故藤尾謙吾氏作出の6品種を展示した(写真3)。

#### ⑩河野メリクロン作出品種

シンビジウムの代表花ともいえるラッキー・フラワー‘あんみつ姫’を含む4品種を展示した。

#### ⑪現代人気のシンビジウム

近年はライフスタイルに合わせて、手軽に飾りやすい小型の「テーブルシンビジウム」や、東洋蘭の雰囲気と香りをもつ「和蘭」と呼ばれるグループが人気であり、各6個体を市場から入手し、展示した(写真4)。なお、「和蘭」とはシュンラン、ホウサイラン、スルガラン、カンランのいずれかの遺伝子が25%以上入っていることを基本とする(向山 2018)。

### 春の特別ラン展を終えて

園芸植物は流行り廃りや作り手不足によって、たとえ一世を風靡した名品であっても、時に消失する危機と隣り合わせにある。今回展示したシンビジウムの古品種や高木農園作出品種は、現在市場流通しておらず、ほとんど目にすることはない。岡山県在住の趣味愛好家によって保存、栽培されていたゆえに実現できた展示であり、これだけ多くの名品が揃う機会はまずないといってよいだろう。現在は小型のテーブルシンビや和蘭と呼ばれるシンビジウム、大型の品種でも花の節間が短く丸い花型など、似通ったタイプが多い中、大温室の空中デッキにさまざまな花型や草姿の品種が一堂に並んだ展示は、古品種を知らない人の目にも新鮮に映ったに違いない。実際、通行する来園者を観察していると、1株ずつ目を止め、解説を読んでいる場面を多く見かけた。また、ラン愛好家からは、メロディ・フェア‘マリリン・モンロー’などを見て懐かしいという声も多数あった。さらに、高木農園のご子息の方が来園されて喜んでいただいたり、あるいは他県のラン関係者たちの間でもSNSで話題になったりしたと聞いている。一般の人にはややとっつきにくい内容の展示ではあったが、当園の特別ラン展であるからこそ、華やかな装飾に加え、貴重なコレクションや地元の洋ラン栽培史といったアカデミックなテーマも取り上げ、様々な人が親しめる展示になればと思う。今後も創意工夫を凝らし、印象に残るテーマ展示を続けていきたい。

### 謝辞

本展示を開催するにあたり、貴重な品種を貸し出していただきました岡山県在住の池田晃氏、香川県在住の大山農園、広島県在住の沖村忠和氏に心より感謝申し上げます。また、高木農園の業績と当時の洋ラン栽培史についてご教授いただきました小島勝也氏に深く感謝の意を表します。

### 引用文献

向山武彦 2018. シンビジウム改良の歴史—インシグネからアレクサンデリ、そして Cymbinomix Diversity. p.90-95. 世界らん展日本大賞事務局・全日本蘭協会・日本洋蘭

農業協同組合・蘭友会 監修. 洋ラン大全. 誠文堂新光社. 東京.

大場良一 2018. 日本の洋ラン界の歴史. p.162-167. 世界らん展日本大賞事務局・全日本蘭協会・日本洋蘭農業協同組合・蘭友会 監修. 洋ラン大全. 誠文堂新光社. 東京.

上田衛・石田源次郎 2007. 昭和30年代の五日市における大規模ラン生産の回顧. 広島市植物公園栽培記録 28:9-12.

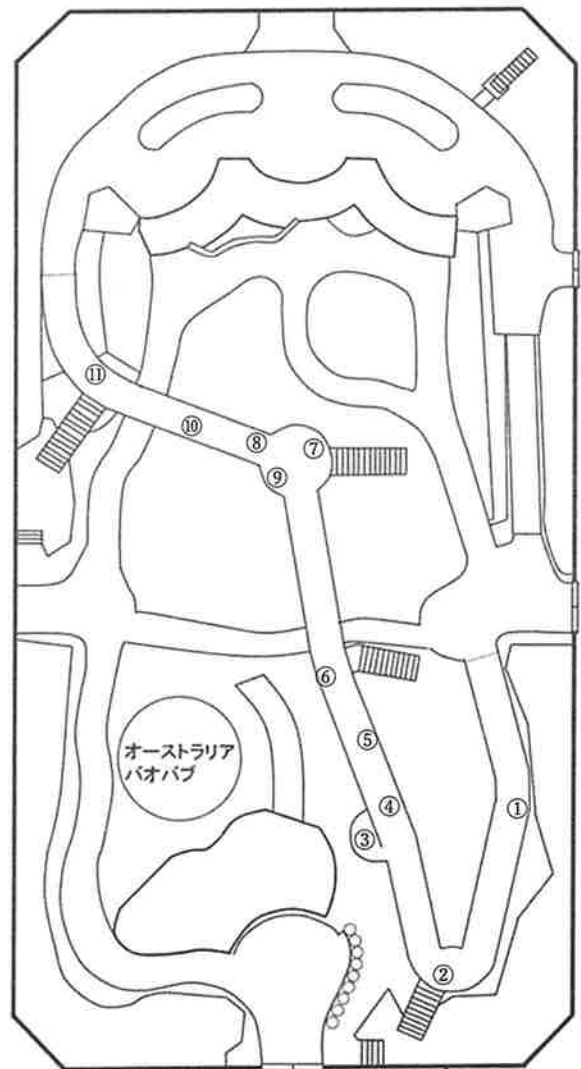


図1 「シンビジウムのタイムトンネル」の各コーナー

表1.「シンビジウムのタイムトンネル」で展示したシンビジウム

コーナー番号	植物名	交配親	登録者	登録日	導入元	備考
①	Cym. dayanum	野生種			池田晃氏から借用	2月まで開花していることから中国原産のものと思われる
	Cym. erythraeum var. flavum	野生種			広島市植物公園	
	Cym. erythraeum '利休'	野生種			池田晃氏から借用	
	Cym. lowianum 'James Drysdale'	野生種			池田晃氏から借用	
	Cym. sanderac	野生種			広島市植物公園	
	Cym. wenshanense	野生種			池田晃氏から借用	
②	Cym. tracyanum	野生種			沖村恐和氏から借用	
③	Cym. eburneum	野生種			広島市植物公園	
	Cym. lowianum	野生種			池田晃氏から借用	
	Cym. insigne	野生種			池田晃氏から借用	
	Cym. Alexanderi 'Album'	Eburneo-lowianum x insigne	H.	1911	池田晃氏から借用	
	Cym. Alexanderi 'Fine'	Eburneo-lowianum x insigne	H.	1911	池田晃氏から借用	
④	Cym. Sarah Jean 'Ice Cascade'	floribundum x Sleeping Beauty	Valley Orchids	1973	市場より購入	
	Cym. Sarah Jean 'Ice Cascade' 挿入り	floribundum x Sleeping Beauty	Valley Orchids	1973	池田晃氏から借用	
	Cym. Sarah Jean 'ピンク'	floribundum x Sleeping Beauty	Valley Orchids	1973	池田晃氏から借用	
	Cym. Sarah Jean 201号	floribundum x Sleeping Beauty	Valley Orchids	1973	池田晃氏から借用	
	Cym. Sarah Jean '湖衣姫'	floribundum x Sleeping Beauty	Valley Orchids	1973	池田晃氏から借用	
⑤	Cym. Melody Fair 'Marilyn Monroe'	Eva x Stanley Fouraker	三浦二郎	1973	池田晃氏から借用	
	Cym. Melody Fair 'Monroe Walk'	Eva x Stanley Fouraker	三浦二郎	1973	池田晃氏から借用	'Marilyn Monroe'の変異個体
	Cym. Great Waltz 'My Fair Lady'	Eva x Stanley Fouraker	三浦二郎	1973	池田晃氏から借用	
	Cym. White Crystal 'Grace Kelly'	Bartolme Ferrello x Stanley Fouraker	三浦二郎	1984	池田晃氏から借用	
	Cym. White Crystal 'Brigitte Brdot'	Bartolme Ferrello x Stanley Fouraker	三浦二郎	1984	大山農園から借用	2株展示
⑥	Cym. Bennett-Poei	indibeides x tracyanum	Bennett-Poe	1903	池田晃氏から借用	
	Cym. Gattonnense	lowianum x tracyanum	Golman	1930	池田晃氏から借用	
	Cym. Rosalita 'Dos Pueblos'	Delysia x insigne	Alexander	1943	池田晃氏から借用	
	Cym. Sussex Dawn 'White Second'	Sussex x Ramboda	McBean's	1955	池田晃氏から借用	
	Cym. Lancelot 'Yagoto'	Amdora x Sweetheart	Paul Miller	1962	池田晃氏から借用	
	Cym. Pearl-Balkis 'Chailey'	Pearl-Easter x Balkis	McBean's	1962	池田晃氏から借用	
	Cym. Mystique	floribundum x Ceres	D.	1966	池田晃氏から借用	
	Cym. Naganeb 'Fragrans'	floribundum x eburneum	Nagano	1966	池田晃氏から借用	
	Cym. Angelica 'December Queen'	Lucense x Lucy Moor	McBean's	1967	池田晃氏から借用	
	Cym. Katydid 'Yasuko Ohiji'	Floribundum x Green Mist	Greenoaks	1970	池田晃氏から借用	
	Cym. Ovation 'Emerald'	Sussex Down x Parma	Armstrong / Brown	1973	池田晃氏から借用	
	Cym. Akiba 'Canary'	Mary Pinchess x Miranda	K. Hiramatsu	1978	池田晃氏から借用	
	Cym. Music Box Dancer 'Eileen Kusob'	Olymilum x Egret	Stewart Inc.	1979	池田晃氏から借用	
	Cym. Tsurugi 'Awa Bizin'	Salome x Lustrous	河野ミクロン	1979	池田晃氏から借用	
	Cym. Senheart 'Sakurai'	Sweetheart x Sensation	I. Nagata	1980	池田晃氏から借用	
	Cym. Lucky Rainbow 'Saint Lapine'	New Mate x Valley Flower	河野ミクロン	1985	池田晃氏から借用	
	Cym. Lovely Bunny 'Othello'	Sleeping Beauty x Yamba	向山蘭園	1991	池田晃氏から借用	
	Cym. Samurai Soul	Pomposo x Eastern Venus	加藤洋ラン苑	1991	池田晃氏から借用	
⑦	Cym. Dingleden 'Amethyst Tears'	Alexanderi x devonianum	S. low	1933	池田晃氏から借用	'Amethyst Tears'は正逆交配(devonianum x Alexanderi)をして選抜した個体(高木No.1061-2)。高木農園では本個体のみの販売だった
	Cym. Peace Lady 'Love Messe'	Lady Mini x Old Star	高木農園	1933	池田晃氏から借用	
	Cym. Samarkand	Heathrow x Alexanderi	Dos Pueblos	1956	池田晃氏から借用	既登録の正逆交配。高木農園ではAlexanderi 'Fine' x Heathrow 'Mary Bee'による2倍体個体(No.2418-1)を販売。アメリカ系のSmarkandはAlexanderi 'Westonbirt'が使った3倍体個体

表1.「シンビジウム」のタイムトンネルで展示したシンビジウム(続き)

コーナー番号	植物名	交配親	登録者	登録日	導入元	備考
7	Cym. Sazanami 'Champion'	<i>floribundum</i> × Shokei	菅波	1963	池田晃氏から借用	既登録の再交配から選抜。本交配では主に2倍体個体の小型のものが多かったが、'Champion' (高木No.18A-1)は3倍体で大柄、大輪個体で、メリクロンで販売した。同交配では'Super' (高木No.18-50)がある
	Cym. Sakuichi Takagi	<i>floribundum</i> × President Wilson	高木作一(高木農園)	1967	池田晃氏から借用	高木No.24
	Cym. Kenny 'Wine Color'	Nam Khan × <i>floribundum</i>	Fuji Nurs.	1968	池田晃氏から借用	'Wine Color'は高木農園が既登録交配の逆交配から選抜した個体(高木No.54-3)。AM/JOS
	Cym. Eikoh	Ruby Eyes × Rathel	高木誠作(高木農園)	1985	池田晃氏から借用	2個体展示。高木No.248-1
	Cym. Hiroshima Golden Cup 'Sunny Moon'	Coraki × Firewheel	高木誠作(高木農園)	1985	池田晃氏から借用	高木No.259-10
	Cym. Signal 'Android'	Nyora × Dorich	高木農園	1985	池田晃氏から借用	高木No.413-1
	Cym. Christmas Candy 'Cream Soda'	<i>floribundum</i> × Stanley Fouraker	高木農園	1986	池田晃氏から借用	高木No.401-4。一部'Milk Shake'で販売された
	Cym. Star Parade 'Halley's Comet'	Konila × <b>Ruby Eyes</b>	高木誠作(高木農園)	1986	池田晃氏から借用	高木No.24
	Cym. Sweet Lady 'Madonna'	Sweet Nelly × Stanley Fouraker	高木誠作(高木農園)	1986	池田晃氏から借用	高木No.375-2
	Cym. Sweet Pearl 'Cosmos'	Ruby Rosalita × Sweetheart	高木誠作(高木農園)	1986	池田晃氏から借用	高木No.591-1
	Cym. Lemon Ice 'Sherbet'	Sweetheart × Enid Haupt	高木農園	1987	池田晃氏から借用	高木No.691-1
	Cym. Oriental Beauty 'Kaguyahime'	<i>sinense</i> × President Wilson	高木農園	1991	池田晃氏から借用	高木No.423-2。Oriental Beautyの個体では'Kaguyahime'のみ販売
	Cym. Oriental Noble 'Green Ace'	Oriental Mini × <i>sinense</i>	高木誠作(高木農園)	1995	池田晃氏から借用	高木No.340-1。一部'Suzumushi'で販売された
	Cym. Ruby Shower 'Azukihime'	<i>devonianum</i> × Rathel	高木農園	1995	池田晃氏から借用	高木No.1059-3
	Cym. Ruby Shower 'Murasaki-Sikibu'	<i>devonianum</i> × Rathel	高木農園	1996	池田晃氏から借用	高木No.1059-1
	Cym. Oriental Mystery 'Kot-Uranai'	<i>sinense</i> × Redwood	高木農園	1997	池田晃氏から借用	高木No.425-6
	Cym. Lemon Point	Oriental Point × Lemon Beauty	T. Ishida	1999	池田晃氏から借用	高木農園在籍時代に小島謙也氏が行った交配を後に石田洋樹園が登録
8	Cym. <i>sinense</i> (報才蘭)	野生種			兼網英行氏と磯部実氏から借用	3個体展示
	Cym. <i>goeringii</i> (香蘭)	野生種			広島市植物公園	
9	Cym. Urara 'Rumi'	Lancelot × Stanley Fouraker	藤尾謙吾	1976	藤尾昂氏から購入	
	Cym. Kagayaki 'Judy'	Lancelot × Itsukushima	藤尾謙吾	1982	藤尾昂氏から購入	
	Cym. Kagayaki 'Miyko'	Lancelot × Itsukushima	藤尾謙吾	1982	藤尾昂氏から購入	
	Cym. Rosy Cheeks 'Ruby'	Gigamesh × Rosinante	藤尾謙吾	1989(農林水産省に登録)	藤尾昂氏から購入	
	Cym. Shiny 'Hiroshima'	Itukushima × Lancelot	藤尾謙吾	1989(農林水産省に登録)	藤尾昂氏から購入	
	Cym. Nohga 'Pastel Color'	(Lancelot × Westholme) × Sensation	藤尾謙吾	1993(農林水産省に登録)	藤尾昂氏から購入	(Lancelot 'Yagoto' × Westholme) × Sensation 'Midnight Gem'
10	Cym. Lucky Flower 'Annitsu-Hime'	Lucky Kawano × Valley Flower	河野メリクロン	1984	大山農園から購入	
	Cym. Seaside 'Fairy' (流通名:プリンセスまさこ)	Lucky Rosanna × Lucky Flower	河野メリクロン	1988	大山農園から借用および市場より購入	3株展示
	Cym. Great Katky 'Aiko-Sama'	Lucky Rainbow × Great Flower	河野メリクロン	1990	市場より購入	2株展示
	Cym. Excellent Green 'Kibo' (流通名:親王)	Bronze Empress 'Paratt' × Ovation	河野メリクロン	2007(農林水産省に登録)	河野メリクロンより購入	
11	Cym. テーブルシンビジウム				市場より購入	6個体展示
	Cym. 和蘭				市場より購入	6個体展示

①シンビジウムの野生種、②日本最古の洋ラン「シンビジウム・トラキアスム」,③シンビジウムの人工交配種のはじまり、④一世を風靡した下垂性シンビジウム・サラ・ジーン 'アイス・キャスケード'の歴史、

⑤女優シリーズや映画のタイトルの品種、⑥貴重な古品種、⑦高木農園で生まれたシンビジウム、⑧高木農園の青種に育種に使われた日本のシンビジウム、⑨広島県で生まれたシンビジウム(広島県廿日市市在住の故藤尾謙吾氏作出品種)、

⑩河野メリクロン作出品種、⑪現代人気のシンビジウム

※1 Royal Horticultural Societyへの登録

表2. (有)高木農園の歴史

1937 (昭和12)年	佐伯郡能美町(現江田島市能美町)鹿川にて創業。高木作一がキンセンカ、ヤグルマソウ、ナデシコ、キクなどを栽培
1946 (昭和21)年	カーネーション栽培と品種育成を開始
1949 (昭和24)年	佐伯郡五日市町(現広島市佐伯区五日市)に農場移転
1954 (昭和29)年	カーネーション'秀峰'、'明星'、'春の粧'を品種登録。広島県花卉共進会でカーネーションに対し、農林大臣賞を受賞。 佐伯郡廿日市町平良(現廿日市市平良)に農場移転。カーネーション専用温室(12棟3000㎡完成)
1959 (昭和34)年頃	洋ラン栽培に完全転換。デンドロビウム(セッコク系)を生産。交配も行う。実生、フラスコ苗は米沢耕一氏に渡して栽培してもらう。
1960 (昭和35)年	無菌培養室設置。クリーンベンチの代わりに無菌箱を使用して培養。主に、デンドロビウム、デンファレ、シンビジウム、フウランの交配育種、生産を行う。
1962 (昭和37)年頃	デンファレの切花生産。東京、大阪へ鉄道貨物便で輸送。デンドロビウムの鉢花生産。
1964 (昭和39)年	東京オリンピック。デンドロビウム・スノーフレック、ホワイトキング、ゴールデン・ドリームなどの選抜個体の挿木増殖を開始する。
1965 (昭和40)年頃	最初の小型シンビジウムの開花が始まる(ムーン・ビーチ、サクイチ・タカギ、スイートハート'ハクウン'、'シラユキ'、'サザナミ'など。
1966 (昭和41)年	NHK「全国優秀農家技術賞」受賞。カトレヤ、ファレノプシスの交配育種を始める。
1967 (昭和42)年	全国農林水産祭で「農林漁業振興会長賞」受賞。でメリクロン培養開始。回転培養器を製作 ルビー・アイス、オリエンタル・レジェンド、ピナフォア、スイートハート(3倍体系)、ケニー'ワイン・カラー'などが咲き始める
1968 (昭和43)年	デンドロビウム・フォーミディブルが開花
1970 (昭和45)年	花の栽培技術の開発等地域産業発展に寄与したことから、高木作一は「黄綬褒章」を受賞 オンシジウムの交配育種を始める。
1971 (昭和46)年	高田郡八千代町(現安芸高田市八千代町)へ農場を作る。ガラス温室26棟10,000㎡、農園面積25,000㎡
1972 (昭和47)年	八千代農場へ移転。シャクナゲ、ツツジの交配育種を始める。
1974 (昭和49)年頃	パフィオペディルム、プレイオネ、カラセなどの育種開始。フウラン系の交配育種を本格的に始める。パフィオペディルムの実生苗を大量生産する シャクナゲ、ツツジの交配育種も開始。
1976 (昭和51)年	シンビジウム・エイコウ、ヒロシマゴールデンカップなど開花。次々と新しい品種を発表。
1978 (昭和53)年	ミルトニア、オドンチオダなどの育種開始。
1982 (昭和57)年	リカステの育種開始
1985 (昭和60)年	新しい培養室(600㎡)を作る
2001 (平成13)年	閉園



写真1 サラ・ジーン'アイス・カスケード'紹介



写真2 高木農園作出品種



写真3 広島で生まれた品種



写真4 現代人気のシンビジウム